

第5回POTT（ぽっと）オンライン学習会報告1

日時： 2021年9月4日（土）13:30～16:00

プログラム 担当 北陸ブロック

①講義 「認知症の人のケア， 家族支援のポイント」

話題提供者 原等子（POTT副代表， 認知症の人と家族の会理事， 新潟県立看護大学准教授）

②実践報告 かみいち総合病院（富山）

土井淳詩（摂食嚥下CN） 廣瀬真由美（摂食嚥下CN） 佐藤幸浩（POTT顧問， 医師）

③グループワーク 自己紹介・POTTや食事支援の悩み

④事例検討 事例提供者 柳澤美直代（認知症グループホーム社長・老人看護CNS）

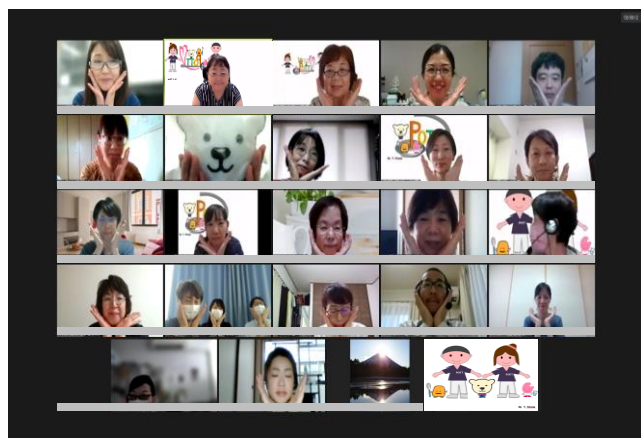
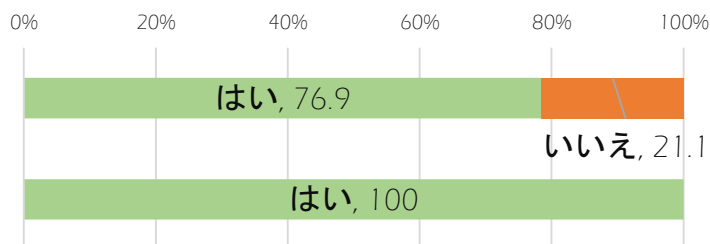
事例アドバイザー 北出貴則（POTT理事， 医療法人誠佑記念病院・PT）

第5回目のZoomオンライン学習会， 全国から47名の参加がありました

- ☆ 講義では認知症の人と家族の思いに寄り添い、ケアをしていくプロ（専門職）としての向き合い方、認知症の原因疾患を踏まえたケアの理解と家族へのケアの大切さなど、再認識したという感想をいただきました。
- ☆ かみいち総合病院の実践では、チームとしてケアを作り上げていく様子と食支援につながる具体的な事例の報告もあり、参考になりました。
- ☆ 事例検討では、認知症グループホームの事例を全員で検討。職員配置や介護職がケアの中心を担う中での対応の検討の仕方や薬剤の調整の必要性、対象者の状況に応じたベッドと車椅子など姿勢選択の考え方などの意見交換ができました。また、新たに迫田代表から「**姿勢チェックリスト**」の提案もあり、より実践で技術が定着しやすくするために活用できそうです。

1) あなたはPOTT（ポジショニング関連）
研修に参加経験がありますか

2) 学習会は参考になりましたか

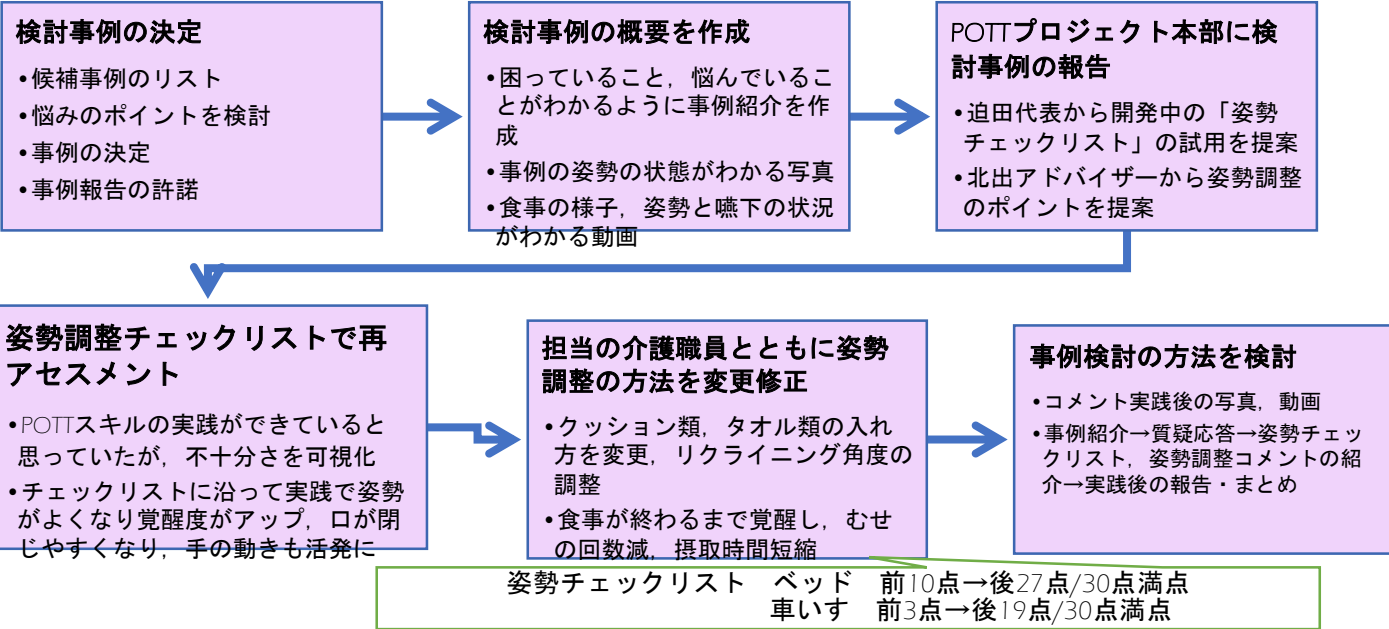


第5回POTT（ぽっと）オンライン学習会報告2

検討事例

- 認知症対応型共同生活介護（認知症グループホーム）に入居中のアルツハイマー型認知症、気管支喘息、肺炎既往（81歳女性）、要介護度5の方で、リクライニング車椅子での食事介助について検討しました。上肢の関節拘縮、項部硬直、口唇ジスキネジアがあり口唇閉鎖不全がある。800kcal/日ソフト食、全介助。看取りをホームで希望されている。経口摂取を続けていきたいが1時間以上1食にかかることもあり、誤嚥も心配。

検討事例作成のフロー



検討内容

①食事を食べている様子から食欲はあるようだが、安楽な姿勢が取れていないように見える。ベッドで安楽な姿勢を確保して食べてもらった方がいいのか。グループホームでは職員の配置人数の関係で、ベッドで個室で食べてもらうと人手がかかるので、リクライニング車椅子（ティルト式）でリビングに出てもらい、他利用者を見守りながら食事を介助している現状。

- 本人はどうしていたいと思っているのか。ずっと一日中居室にいるよりは、にぎやかなリビングに出てくる食事の時間は貴重かもしれない。
- 安楽に食事を食べてもらい、気分転換はそれ以外の時間でもいいのでは。マンパワーの問題あるのなら、ベッドでリビングに出てもらうことは可能か。
- 食事場面では迷いますが、車椅子離床に関しては、関節拘縮の予防や、肺機能の維持などいろいろな効果があるので、離床する機会は必要かと思います。ベッド上のポジショニングでは、予測ですが膝の伸展制限により骨盤が左に傾きやすいのかもしれませんが。傾きが少なくなるようなベッド上のポジショニングが必要かもしれません。
- 一日の中で離床する時間があればベッド上、車椅子、どちらでもよいと思いました。ベッドで食堂にでるのもいいと思います。一日中ねたきりになるとD-ダイマー上がって血栓できやすくなるので注意必要と思いました。

②内服薬が散剤等8種類、どうやって飲ませているのか気になった。ジスキネジアも多剤併用の副作用もあるのでは？薬を減らせないのか。

- お茶ゼリーに混ぜて飲ませている。苦味で口から出してしまうこともある。主治医がなかなか減らしてくれない。
- おそらくほとんどの薬はいらないと思います。ただ減らしていくのは担当医の考え方もあるので難しいかもしれません。
- 調剤薬局の薬剤師などから、主治医に進言してもらうこともできるのでは。

感想 全般

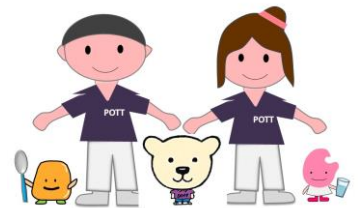
- 原先生の認知症の講義、かみいち総合病院の皆様の実践報告、柳澤さんの事例検討、大変勉強になりました。月曜から、学生と一緒に実習で現場で早速生かしていきたいと思います。皆様に刺激をいただき、モチベーションがすごくアップしました！
- 皆さまの取り組みを伺い、非常に実践的な話を具体的に伺うことができ、勉強になりました。またグループワークでは、思いがけず、昨日までの現場での悩みを相談でき、月曜からまた実践で活用できそうなアイデアをいただき、とても参考になりました。
- 認知症看護と摂食嚥下看護がタイアップすると摂食が各段にアップするということ。
- 今回、オンラインの学習会に初めて参加しました。コロナ禍で実践的な研修が難しい中ですが、こうして日本各地の皆様とつながり、講義、実践報告、事例検討と内容の濃い話を伺えてとてもよかったです。グループワークも参加できてよかったです。大変ありがとうございました。コロナ禍での技術の伝承をどうしたらよいか迷っています。伝えることもそうですが、自分自身もアップデートするために、いろんな実習・実践のできる研修(コロナ禍以前のPOTT研修スタイル)に参加できない中で、自分の技術にも不安を覚えてきます。オンラインで、実践形式(実習スタイル)できないもののでしょうか。もし出来たら、遠隔で技術指導・研修なども、少しでも体験もしつつできたらうれしいと感じました。
- 皆さまの活動にいつも刺激をいただき、元気をいただき、パワーをいただいています。ありがとうございます。私自身も微力ながら、日々1事例でも多くの患者さんに食べる喜びをお届けできるよう頑張っていきたいと思います。ここに来たらいつも、モチベーションが上がります、また明日から頑張れる気がしてきます。仲間がいることを、その存在をこうして身近に感じることができること、本当にありがたいです。これからも応援しています。どうぞよろしくお願いいたします。

講義「認知症の人と家族の支援」

- 「認知症は病人を2人つくる」という言葉から改めて家族やケアにかかわる人のサポートが必要であることを感じました。
- 家族は24時間365日の介護で確かに常時やさしくはなれません。家族の立場からと支援者の立場双方から聞かせていただきました。認知症カフェや地域の支援は昔より進んでいますが、認知症だけでなく精神疾患や障害者への偏見は根強くあります。一般の理解者の裾野を地道に広げていくしかないのでしょうか。
- 認知症の人の「立場の恩人になる」いい対応のヒントをいただきました。

事例検討

- 認知症の方の食支援に悩んでいました。柳澤さんの取り組み、食べる支援の工夫は一つ一つとても参考になりました。早速、実践していきたいと思います。
- 事例検討とアセスメントシートの活用の可視化、大変勉強になりました。
- 評価表を使用してみたいです。迫田先生からのアドバイスも活かしたいと思います。
- 実践報告。車椅子上が良いか、ベッド上が良いか。同様の内容で悩んだ経験がありヒントを得ることができました。



By Y. Kitade

次回は11月27日実践報告会です またお会いしましょう